平成23年11月2日

各位

会社名　日本サード・パーティ株式会社
代表者名 代表取締役社長　　森　　和昭
（JASDAQコード番号：2488）
問合せ先 取締役事業戦略室担当　佐伯　康雄
（電話　03－6408－2488）

日本サード・パーティ（株）が提供するガイガーカウンターが 衆議院超党派による災害・復興状況等実情調査議員団による チェルノブイリ原子力発電所等視察に採用され活躍

日本サード・パーティ株式会社（本社：東京都品川区北品川4丁目7番35号、代表取締役社長 森　和昭、通称 JTP）が提供している、POLIMASTER Ltd.（本社：ベラルーシ共和国　ミンスク、社長：ウラジミール・カネフスキー、以下ポリマスター社）製、PM1703MO-1（個人向け放射線量測定器）が、超党派による『衆議院欧州及び中近東各国における災害・復興状況等実情調査議員団』によるチェルノブイリ原子力発電所視察（10月9日～15日）等に採用され想定数値等性能・機能面を高く評価され活躍しました。

【添付資料】
・調査議員団名簿
・柿沢未途衆議院議員（みんなの党）　視察報告書（関係個所の一部を抜粋版）

【PM1703MO-1 の特長】
PM1703M0-1 は、CsI(Tl)シンチレーション式とガイガー＝ミュラー管式の検知機能をあわせた高性能の放射線測定器です。感度の高い CsI(Tl)シンチレーション式を搭載しており、ガンマ線を検知することができます。ガイガー＝ミュラー管(GM 管)を使用した場合、正確な累積線量と線量率を測定いただけます。小型、軽量のため外出時の持ち運びにも便利です。
ITRAP/IAEA、IEC69846、IEC62401、ANSI N42.32 や ANSIN42.33 など様々な規格に準拠。
（機能）
・CsI(Tl)シンチレーション式とガイガー＝ミュラー管（GM 管）の検知器
・小型、高性能
・2 つのボタンによる簡単操作
・音、バイブレーションによる警告アラーム
・不揮発性メモリ
・ノイズ低減機能搭載

詳細仕様

http://www.jtp.co.jp/polimaster/pm1703mo.html

検知器	CsI(TI)シンチレーション ガイガー＝ミュラー計数管
線量率範囲	0.01μSv/h～10Sv/h (1μR/h-999 R/h)
線量範囲	0.01μSv～9.99Sv (1μR-999R)
エネルギー範囲	0.033～3MeV
測定時間	0.25s
アラーム警告	音、バイブレーション、画面
データ保存	2000 データ（2000 回分の線量記録）
保護等級	IP65
落下による衝撃対応	1.5m
電源	単 3 電池または、充電
動作環境	温度：-30℃～50℃
寸法	72×32×87mm
重量	200g

以上

衆議院欧州及び中近東各国における災害・復興状況等実情調査議員団　名簿

平成23年9月30日
衆議院国際部総務課

団　長	衆議院議員	古賀一成君	（民　主）
	同	額賀福志郎君	（自　民）
	同	大島　敦君	（民　主）
	同	田嶋　要君	（民　主）
	同	橋本清仁君	（民　主）
	同	石田祝稔君	（公　明）
	同	高橋千鶴子君	（共　産）
	同	柿澤未途君	（みんな）

（同　行）

衆議院参事　近藤弘康
（委員部調査課課長補佐）

内閣事務官　串田俊巳
（東日本大震災復興対策本部事務局参事官）

同　鬼頭恵美
（東日本大震災復興対策本部事務局係員）

【ウクライナ・キエフ　元保健相らからのヒアリング】

11 日。ウィーンを離れ、ウクライナの首都キエフへ。チェルノブイリの現地訪問は明日。このために携帯用線量計を持ってきた。私はベラルーシの POLYMASTER 社のものを借りてきた。キエフの空港ではこんな数字。

到着早々だが、夜、チェルノブイリ事故当時のソ連邦ウクライナ共和国保健相だったロマネンコ・放射線医学センター元所長、非常事態省副大臣だったプリステル氏、甲状腺医学の権威である内分泌研究所のトロニコ所長らとのヒアリング兼夕食会。

プリステル氏、汚染地域の除染に関して、立入禁止区域（30km 圏内）に汚染物の「埋葬」をした。区域内に 540 ヵ所の「埋葬所」、居住村落の周辺でも。緊急だったので基本的に素掘りの土中埋却に。周辺の水は相応の濃度の汚染がある。しかし井戸の深さではプリピャチでも水質に問題なしと。

プリステル氏に出席議員が質問。「日本は内部被曝の暫定規制値という事で食物 500Bq/kg、飲用物 200Bq/kg という原則一律の基準だが」プリステル氏「不可解な値だ。これから見直されなければならない」「同じ 100Bq/kg でも大人のワインと乳児のミルクでは違う考慮が必要だ」

甲状腺医学の権威トロニコ氏。「甲状腺癌はウクライナ、ベラルーシにおいて深刻な問題」「事故から 4 年後に増え出した。事故当時 0-9 歳、特に 0-4 歳だった子どもに特異的」「ウクライナ北部州における発症率は 10 倍に」「人口の 10%し

【チェルノブイリ発電所訪問】

チェルノブイリへ。キエフから100km、車で3時間。キエフの市街地では空間線量は0.09μSv/h前後。これがチェルノブイリ発電所の石棺の前では7μSv/h前後になるという。

キエフから遠ざかると、時折、集落がある以外は、ポプラや白樺の木々の中、ひたすら一本道を走る。天気は雨。

30km地点のチェックポイントに。ここから先は立入禁止区域、許可なしの立入は禁止。私達もパスポートの提示を求められる。「係員に向けて写真を撮らないようにしてください」と。やや緊張感が走る。

30km地点のチェックポイントでの空間線量は0.06μSv/h。キエフの市街地よりも低い値。この先も線量値に大きな変化はないまま。

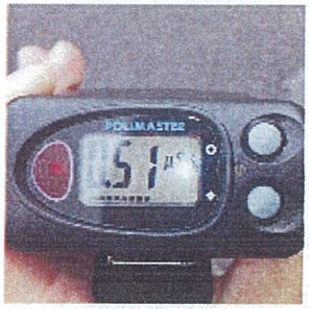
30㎞ 圏内は立入禁止区域、基本的に人が住めない区域になっている。元々、住んでいた村人も全て避難、故郷を捨てざるを得なかった。ロードサイドには廃屋が。

捨てられた牧舎。視界を遮る木々は事故後、25 年間の歳月で生えてきたもの。荒廃した村落の光景が痛々しい。家の撤去も行なわれたそうだが、帰還が断念された事もあり、途中から撤去をやめ、そのまま放置されるようになった。

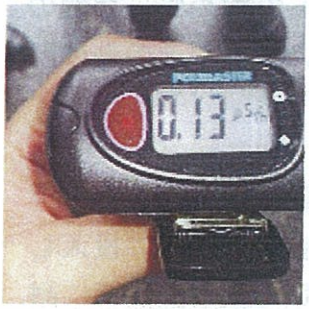
チェルノブイリ市、市街地。事故前は数万人の人口がいたと言われる。今も少数の原発作業員が生活しているが、立入禁止区域内にあり、大半は捨てられた街となっている。

チェルノブイリ発電所の管理棟に到着。

管理棟の前で車を降りると、急激に空間線量の値が上がり始める。0.51μSv/h。

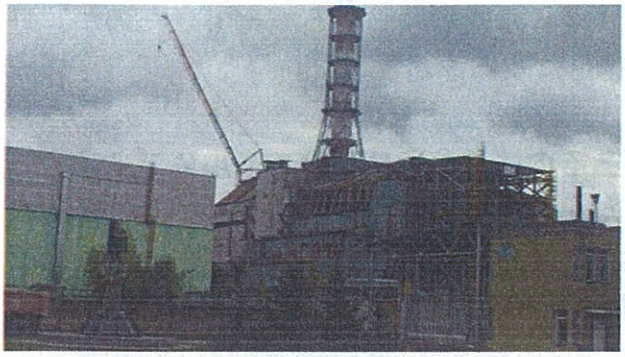


管理棟の中に入ると、建物内なので、ガクンと線量が下がる。0.13μSv/h。東京近辺でもところによっては普通に観測するような数字。チェルノブイリ発電所の目の前にいるのだが。



管理棟にて、カトゥーニン副所長（保安担当）から話を聞く。チェルノブイリ発電所は旧ソ連に典型的な黒鉛型の原子炉。プルトニウムの生成にも使われ、

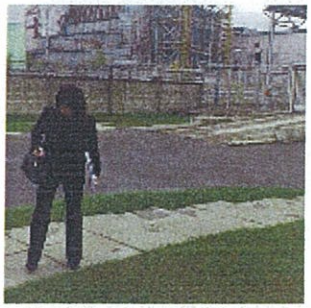
の石碑のある地点から石棺を見る事ができる。外部の一般人が屋外で石棺を見る事が許される唯一の場所。



石碑の地点から石棺を望む。石棺からわずか 150m。当然、空間線量値は急激に高くなる。 6.53μSv/h。

そのわずか 6 秒後。9.43μSv/h に。線量計によっても変わるが、大体、平均的には 7μSv/h 前後のようだ。いずれにしても、防護服も着ないでこれだけ近くに来られる状態になっている。一定程度の封じ込めはできているという事だろう。

石碑前、被曝を最小限にするインストラクション。「コンクリートのところを歩いてください」「芝生の上は絶対に歩かないでください」「カバン等の持ち物を絶対に地面に置かないでください」と。



石棺展望パビリオンの中へ。ちなみに空間線量だが、傾向として建屋の南は低

避難により廃市となり、無人の街となった。25 年間の歳月で草木も伸び放題。

プリピャチ市、中心市街地。左はスーパーマーケット、右はホテル。真ん中に広場があり、広場はバラの花でたいそう美しかったのだそうだ。

広場で空間線量を測定。1.45μSv/h。低いようだが、線量を確認して低い地点だからこそ見学者の立入が許されているのだそうだ。

プリピャチ市、5 万人の人口がいたが、事故直後に全住民が「一時避難」。「3 日分の荷物だけ持って」と指示され、慌ててバスに乗って逃げたが、結局、そのまま帰還できなくなってしまった。その後の家財道具の持ち出しも禁止されているそうだ。